研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-190		20-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Trends in Alcohol Consumption for Korean Adults from 1998 to 2018: Korean National Health and Nutritional Examination Survey
1998 年から 2018 年における韓国成人アルコール消費量の傾向：韓国国民健康栄養調査

執筆者

Kim SY, Kim HJ.

掲載誌

Nutrients. 2021 Feb 13;13(2):609. doi: 10.3390/nu13020609.

キーワード	PMID
韓国国民健康栄養調査　アルコール　アルコール飲料　傾向	33668462

要　旨

目的：韓国ではアルコール摂取の文化が変化してきている。今回、韓国成人において社会人口学的変数およびアルコール飲料の種類と純アルコール摂取量の変化を調査した。

方法：1998 年から 2018 年までの韓国健康栄養調査のデータを使用した。この研究は 19 歳以上の成人、合計 87,623 人（男性 37,249 人、女性 50,374 人）を対象としている。対象者の年齢や教育レベル、収入、職業、居住地域を分類し、過去 24 時間の食物とアルコール摂取を思い出し法にて調査し、1 日の純アルコール量はアルコール飲料の種類に応じて計算した。

結果：1 日の平均アルコール摂取量は 8.37g（1998 年）から 14.98g（2016-2018 年）へ増加しており、増加の程度は男性（14.78g から 23.94g, 1.8 倍）より女性（2.09g から 5.79g, 2.8 倍）で高かった。また、男性では 30～49 歳、女性では 19～29 歳で最も摂取量が高かった。さらに、失業者を除いて、教育水準や所得状況、職業、地域に関わらず、1 日のアルコール摂取量は有意に増加していた。また、他の因子と比較して社会経済的因子が高い者ではアルコール消費量の増加がより顕著であることも明らかとなった。そして、飲料種類別ではすべての年においてアルコール消費量は焼酎からが最も多く、ビールは次いで 2 番目に多かった。

結論：韓国では 21 年間で 1 日のアルコール摂取量が約二倍に増加しており、社会人口学的状況により増加の程度が異なることが明らかとなった。したがって、人口全体のみならずリスクの高い特定の個人に対して適切な教育とガイドラインを提供することが重要である。また、特定のアルコール飲料と健康上の問題との関連についての調査も今後必要である。